

# モザンビーク

Republic of Mozambique

	2015年	2016年	2017年
①人口：2,886万人（2017年）			
②面積：79万9,380万km <sup>2</sup>			
③1人当たりGDP：429米ドル （2017年）			
④実質GDP成長率（%）	6.6	3.8	3.7
⑤消費者物価上昇率（%）	10.6	25.3	5.7
⑥失業率（%）	n.a.	n.a.	n.a.
⑦貿易収支（100万米ドル）	△4,163	△1,405	△465
⑧経常収支（100万米ドル）	△5,968	△3,846	△2,440
⑨外貨準備高（グロス） （100万米ドル）	2,411	2,022	3,179
⑩対外債務残高（グロス） （100万米ドル）	11,352	10,065	11,395
⑪為替レート（1米ドルにつき、 メティカル、期中平均）	39.98	63.06	63.58

〔出所〕 ①②④⑤⑦⑧：モザンビーク統計庁、⑩：モザンビーク中央銀行、③⑨⑪：IMF

2017年の実質GDP成長率は3.7%で、前年の3.8%から横ばいとなった。総固定資本形成が鉄道や港湾向けの設備投資の拡大を受けて好調だったものの、民間消費支出の伸びが鈍化し、全体の成長を押し下げた。また、政府の非開示債務問題はいまだ解決されておらず、国際通貨基金（IMF）や主要ドナーによる財政支援再開の見通しが立たないことから、2018年の成長率は3.2%にとどまる見込みだ。

## ■非開示債務問題が影響し、2018年の成長率は3%台の見通し

2017年の実質GDP成長率を需要項目別にみると、民間最終消費支出は3.5%と前年の5.1%から下落した。また、財貨・サービスの輸入がマイナス3.5%となった。他方で、石炭やアルミニウムの輸出が増加したため、財貨・サービスの輸出は25.4%の高い伸びを示した。前年に大きく落ち込んだ総固定資本形成は、鉄道や港湾向けなどの設備投資により、前年比13.9%増となった。北部カーボデルガード州の天然黒鉛の輸出が2017年11月から開始されたほか、同じく北部のコーラル・サウス・ガス田への投資が2017年6月に決定された。

政府の非開示債務問題は引き続き、経済成長の阻害要因となっている。2017年6月、IMFは非開示債務問題に関する監査報告書要旨を発表したが、依然として開示情報が十分でないことや、財政上の透明性に問題があることから、アクション・プランの作成を政府に求めている。さらに、2018年10月の統一地方選挙や、2019年10月の

大統領選挙を控え、非開示債務問題の解決に向けた政府の動きは鈍く、問題は今後数年続くと懸念されている。世界銀行とIMFは、2018年の実質GDP成長をそれぞれ3.2%、3.0%と見込んでいる。

2017年末時点での対外債務は114億ドルと前年の101億ドルから増加した。2018年初めに実施されたナンブラ市長選挙の影響もあり、公的債務は2018年5月末にはGDP比112%まで上昇した。2018年の統一地方選挙と2019年の大統領・議会選挙に伴い、公的債務はさらに増加するとみられる。一方、2017年の外貨準備高は31億8,000万ドルで、前年の20億2,000万ドルから大きく増加した。外国企業による大型投資事業への権益売却に伴うキャピタルゲイン税や輸出の好調が背景にある。

2016年に大幅に下落した通貨メティカルは、2017年に入って安定している。消費者物価上昇率も2017年平均5.7%と前年の23.7%から大幅に下降した。モザンビーク銀行は徐々に金融緩和を開始しており、2018年6月には、公定歩合を15.75%（前年同月21.75%）まで引き下げた。

表1 モザンビークの需要項目別実質GDP成長率

（単位：%）

	2015年	2016年	2017年
実質GDP成長率	6.6	3.8	3.7
民間最終消費支出	4.9	5.1	3.5
政府最終消費支出	11.8	4.8	4.3
国内総固定資本形成	△22.8	△29.9	13.9
財貨・サービスの輸出	△1.2	1.2	25.4
財貨・サービスの輸入	△6.7	8.3	△3.5

〔出所〕 モザンビーク統計庁

## ■好調な石炭輸出により貿易赤字は大幅減

2017年の貿易（通関ベース）は、輸出が前年比41.8%増の47億1,900万ドル、輸入は同9.5%増の51億8,300万ドルとなり、輸出が大幅に増加した。貿易収支は4億6,500万ドルの赤字となったが、前年の14億500万ドルから大幅に改善しており、赤字幅は年々縮小する傾向にある。

輸出を品目別にみると、前年まで最大品目だったアル

ミニウム製品を抜き、石炭が首位となった。ブラジル大手資源ヴァーレと三井物産が開発を進めるモアティゼ炭鉱の第二鉱区の生産開始、石炭の国際市場価格の上昇、ナカラ回廊の鉄道港湾インフラの整備による輸出の本格化により、石炭は金額ベースで前年比134.6%増となり、構成比も35.8%となった。三菱商事が出資するモザールが製錬するアルミニウム製品も、市況の好調から前年比30.6%増となった。南アフリカ共和国（以下、南ア）の化学企業大手サソールが中部イニャンバネ州のパンデ・テナネガス田の開発を行い、天然ガスの輸出は30.1%の増加となった。国別では、インド向けの石炭輸出が大幅に増加したことから、同国向けの輸出額は前年比140.0%増となり、南ア、オランダを抜き、最大の輸出相手国となった。

輸入を品目別にみると、一般機械（20.9%減）、建設資材（6.0%減）、自動車（11.9%減）と主要品目は軒並み減少した。一方、原油価格の上昇と干ばつの影響から、原油（34.9%増）やコメ（34.4%増）といった食料品の輸入額が増加した。国別にみると、建設資材や消費財の主要

表2 モザンビークの主要品目別輸出入&lt;通関ベース&gt;

(単位：100万ドル、%)

	2016年		2017年	
	金額	金額	構成比	伸び率
輸出合計（その他含む、FOB）	3,328	4,719	100.0	41.8
石炭	719	1,687	35.8	134.6
天然ガス	276	360	7.6	30.1
重砂	190	210	4.5	10.6
貴石・貴金属（ルビー、サファイヤ他）	101	97	2.1	△3.7
アルミニウム製品	843	1,101	23.3	30.6
電力	376	361	7.6	△4.1
輸入合計（その他含む、FOB）	4,733	5,183	100.0	9.5
コメ	127	170	3.3	34.4
アルミニウム原料	428	450	8.7	5.2
医薬品	210	227	4.4	8.0
電力	176	245	4.7	39.0
燃料（原油等）	558	741	14.3	34.9
建設資材（セメント等）	403	379	7.3	△6.0
一般機械	970	767	14.8	△20.9
自動車	211	186	3.6	△2.1

〔出所〕モザンビーク中央銀行貿易年鑑（2017）

表3 モザンビークの主要国・地域別輸出入&lt;通関ベース&gt;

(単位：100万ドル、%)

	輸出 (FOB)				輸入 (FOB)			
	2016年		2017年		2016年		2017年	
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
インド	676	1,622	34.4	140.0	1,443	1,498	28.9	3.8
南アフリカ共和国	706	884	18.7	25.2	345	483	9.3	40.1
オランダ	849	473	10.0	△44.4	380	449	8.7	18.1
イタリア	42	270	5.7	544.9	115	446	8.6	289.8
中国	143	253	5.4	77.0	296	410	7.9	38.5
シンガポール	114	137	2.9	20.1	58	231	4.5	300.3
ベルギー	46	90	1.9	93.3	228	220	4.3	△3.2
スペイン	68	81	1.7	20.0	110	102	2.0	△7.7
合計（その他含む）	3,328	4,719	100.0	41.8	4,733	5,183	100.0	9.5

〔出所〕モザンビーク中央銀行年鑑（2017年）

輸入相手国である南アが3.8%増だった。また、原油の輸入先であるアラブ首長国連邦（40.1%増）、粗製アルミニウム等のオランダ（289.8%増）からの輸入が大幅に増加した。

## ■対内投資では大型投資案件相次ぐも、総額は前年比40.9%減

2017年の対内直接投資（国際収支ベース、ネット、フロー）は、前年比40.9%減の22億9,000万ドルとなった。非開示債務問題とモザンビーク長期外貨建て国債の格付け「選択的デフォルト」が投資家心理の悪化につながったと見られている。一方で、2018年国連世界投資報告書によると、南部アフリカ域内では、南ア、アンゴラを抜いて、対内直接投資額1位となった。主要ドナーからの財政支援が停止されている中、対内直接投資は経済成長を促すとして重要視されている。

セクター別では、鉱業分野への投資が全体の58.1%を占め、13億3,300万ドルであった。2016年に大きく落ち込んだ不動産への投資は、大型ショッピング・モールへの投資（9,600万ドル）もあり、52.8%増となった。

国別では、モザンビーク中央銀行のデータによるとアラブ首長国連邦（以下、UAE）が最大（5億5,600万ドル）であり、モーリシャス（2億4,900万ドル）、中国（2億2,200万ドル）と続く。UAEにはヴァーレなどの支店があり、UAE支店経由で投資が実施されることから、最大となった。

2017年6月、イタリア炭化水素公社（ENI）は、北部カーボデルガード州で進められている天然ガス田エリア4の天然ガス（LNG）事業における80億ドルの最終投資決定を発表した。2017年12月、エクソン・モービルは、同事業におけるENIの権益（25%分）を28億ドルで取得した。エクソン・モービルの権益売却に伴い、3億5,270万ドルのキャピタルゲイン税がモザンビーク政府に支払われた。さらに、米石油大手アナダルコや三井物産も同エリアのLNG事業において総事業費約250億ドルの最終

表4 モザンビークの国・地域別対内直接投資  
 <国際収支ベース、ネット、フロー>

(単位：100万ドル、%)

	2016年	2017年		
	金額	金額	構成比	伸び率
アラブ首長国連邦 (UAE)	589	556	24.2	△5.6
モーリシャス	320	249	10.9	△22.3
中国	33	222	9.7	564.6
イタリア	407	205	8.9	△49.8
米国	286	137	6.0	△52.2
南アフリカ	1,762	125	5.4	△92.9
ポルトガル	80	106	4.6	32.8
トルコ	28	90	3.9	226.3
韓国	1	51	2.2	4,715.1
英国	25	46	2.0	78.9
合計 (その他含む)	3,882	2,293	100.0	△40.9

[出所] モザンビーク中央銀行年鑑 (2017)

表5 モザンビークの業種別対内直接投資  
 <国際収支ベース、ネット、フロー>

(単位：100万ドル、%)

	2016年	2017年		
	金額	金額	構成比	伸び率
鉱業	1,749	1,333	58.1	△23.8
運輸・通信業	537	205	8.9	△61.9
卸・小売業	144	151	6.6	5.0
不動産・レンタル業	97	148	6.5	52.8
建設	60	105	4.6	75.4
エネルギー・ガス・水	118	97	4.2	△17.9
農業	68	83	3.6	21.1
製造業	132	71	3.1	△46.8
合計 (その他含む)	3,882	2,293	100.0	△40.9

[出所] モザンビーク中央銀行年鑑 (2017)

表6 日本の対モザンビーク主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位：100万ドル、%)

	輸出 (FOB)					輸入 (FOB)			
	2016年	2017年				2016年	2017年		
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
一般機械	1	28	28.2	1,816.1	鉱物性燃料 (石炭)	104	147.0	83.1	40.7
輸送用機器 (自動車)	24	30	29.6	25.3	非鉄金属鉱物	3	11.0	6.1	249.4
医薬品	5	5	5.3	4.4	魚介類	3	4.0	2.2	24.8
鉄鋼製品	6	10	9.7	54.2	非金属鉱物製品	1	1.0	0.8	△34.2
合計 (その他含む)	51	101	100.0	97.4	合計 (その他含む)	126	177	100.0	40.1

[出所] 日本財務省貿易統計

投資決定が待たれている。また、三井物産は、2017年3月、ヴァーレからモアティゼ炭鉱 (15%) とナカラ回廊の鉄道・港湾事業子会社 (50%) の持ち株を取得し、7億3,300万ドルの投資を実行した。

## ■日本への石炭輸出が増加

日本のモザンビークへの輸出 (通関ベース) は前年比97.4%増の1億100万ドルとなり、輸入は前年比40.1%増の1億7,700万ドルとなった。

輸出は、自動車 (中古車含む) が前年比25.3%増となった。原動機と鉄鋼製品の輸出も増加しており、金額ベースでそれぞれ52倍、54.2%増と大きく伸びた。

輸入では、石炭 (製鉄用の原料炭) が8割以上を占めており、石炭価格の高騰により、輸入額が前年比40.7%増の1億4,700万ドルとなった。次いでチタン鉱の輸入が増加したが (同283.9%増)、ゴマは金額ベースで減少した (同7.0%減)。

2016年12月には、東北電力がモザンビークからのLNG購入に関して、米アナダルコなどが出資するLNG販売会社のモザンビーク LNG 1 との間で基本合意書を締結した。2017年6月には東京ガスと英ガス大手セントリカが、モザンビークでのLNG共同調達に基本合意しており、天然ガスの供給地としてモザンビークが注目されている。